

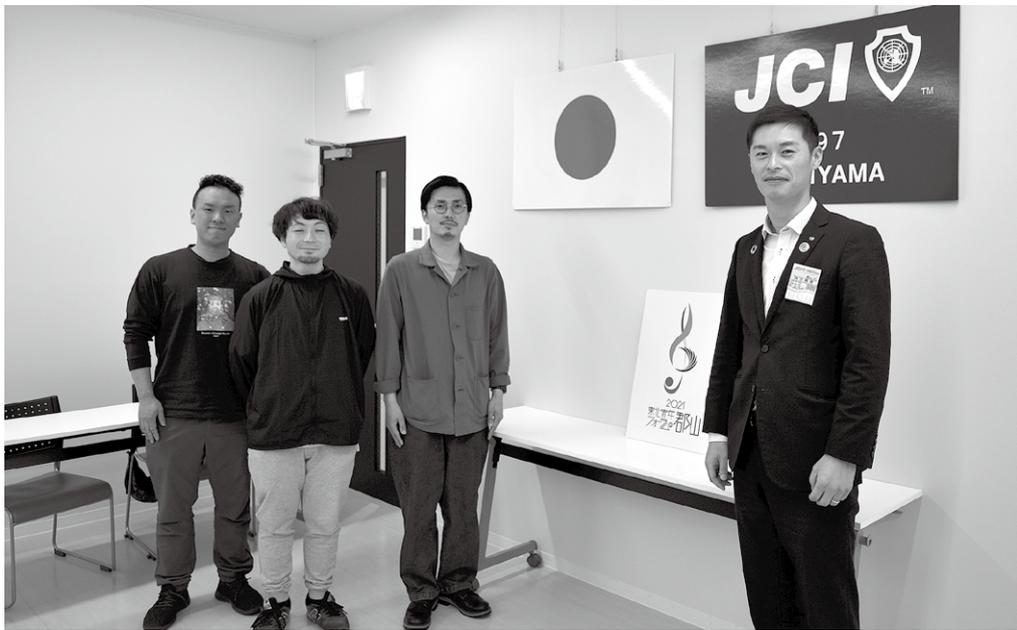
Harmony



公益社団法人郡山青年会議所2021年度スローガン

共奏

～共に創ろう笑顔と活気溢れる郡山の未来を～



郡山市で活躍するロックバンドグループ
ひとりぼっち秀吉BAND

特別対談

柳沼恵理事長(以下、柳沼)：本日はお忙しいなか貴重な機会をいただきありがとうございます。



柳沼：本日はお忙しいなか貴重な機会をいただきありがとうございます。これまで郡山青年会議所の事業にも様々なかたちでご協力いただいている「ひとりぼっち秀吉BAND」の皆様ですが、今回改めて対談という機会を設けさせていただきました。本日はどうぞよろしくお願いたします。

ひとりぼっち秀吉ホリニナイツド、ヨギ(以下、秀吉ホリ、ヨギ)：よろしくお願いたします。

柳沼：まず、二〇〇八年から活動を開始したということですが、皆様が音楽を始めたきっかけについてお聞きしたいと思います。

秀吉：小学校六年生の時にギターを買って試行錯誤して弾いていたのですが、一番のきっかけは中学一年生の時に同級生と一緒に当時流行っていた「19」や「ゆず」の楽曲を文化祭で演奏したというのがきっかけです。

ヨギ：僕が中学生の頃にアカペラが凄く流行っており、僕も学校の友達と一緒にアカペラグループを結成しました。その延長で高校に入学後にバンドを始めた友達から「ドラムをやってくれないか？」と誘われたのが始まりです。

ホリ：中学三年生の時に「ASIAN KUNG-FU GENERATION」のコピーバンドを始める時に皆がギターをやりたいがるなか、私はベースを選んでバンドを始めました。秀吉BANDのオリジナルメンバーではないのですが、高校時代から縁がありメンバーに入りました。

柳沼：ありがとうございます。ホリさんのお話にも一部触れておりましたが「ひとりぼっち秀吉BAND」結成のお話もぜひお聞きしたいと思います。

秀吉：高校卒業後にひとりで弾き語りを始めたのですが、独りでステージに立つて頑張って演奏しているとCLUB#9の店長に「いい曲だね」とか「よくなったね」と褒めてもらい認めてもらえたことが嬉しくて、そこから本気で音楽をやろうと思えました。そして、高校時代にバンドを組んでいたこともあって音楽をするならやはりバンドをしたいと思います、ひとりぼっち秀吉が創る音楽ということで「ひとりぼっち秀吉BAND」



AND」を結成するため、高校時代に組んでいたバンドのギターを誘い一緒にドラムとベースを探してバンド活動をスタートしました。この「ひとりぼっち秀吉BAND」はメンバー交代が多くて初めてCDを作ったのはいいが、初CDリリースのライブには既にベースがバンドを抜けており、ベースを探しているときにホリさんに出会ったという経緯などがありました。



ひとりぼっち秀吉(歌い手)

柳沼 色々と裏話的な話まで聞かせていただきありがとうございます。これまでも我々の事業で様々な楽曲を披露していただき、私も個人的に秀吉さんの楽曲からたくさん勇気をいただきました。特に「俺たちまだやれる人」では楽曲がテレビCMにも起用されるなど、バンドを代表する曲となっておりますが、この曲の制作の経緯や裏話などありましたら教えてください。

秀吉 もともと考え方がネガティブで、そのような自分を変えたくて自身に捧げる応援歌として歌詞を作成しました。もともと自分自身を応援する曲なので、この曲でバンドを広めるという意識はなかったのですが、ライブで演奏していくなかでファンが広めていってくれた。ヨギ：ファンのほうが「これぞ秀吉BANDの一曲だね」という感じになっていましたね。

秀吉 自分たちではなくて、聞いてくれて

いる人たちのほうが「いいね」となっていたのに当時の自分が一番驚いていました。

ヨギ この曲はネタみたいなところがあつたのですけどね。

秀吉 自分が良いと思っている曲が他にも沢山あるなかで、これが代表的曲になつていったのが驚きでした。

柳沼 はじめは自分に向けての応援歌だったのですか。

秀吉 そうです。Aメロ、Bメロでネガティブ、サビで前向きという曲が多いのですがその一番目の曲という認識です。

柳沼 本当に前向きになる曲ですよ。作詞作曲は秀吉さんが行っているとのことですが、楽曲の作成にあまり意識していることやルーティンのようなものはありますか。

秀吉 いい曲創りたい一心でギターを持って作っていますが、手法は今と前では環境の違いもあり変化がありました。昔は歌詞を書いて、思いを書いて、そこに曲を付けるというスタイルでしたが、今は曲が先にきます。子供を育てながら合間に曲を作っているというのが現実なのですが、不思議といい曲ができてたりします。今と昔の自分は結構違い、当時は地元で有名になりいろいろな人たちを自分の曲で勇気づけられると信じており、地元ミュージシャンの先輩や後輩と一緒に頑張ろうというわけではなく「ひとりぼっち秀吉BAND」で天下取つてやろうという気持ちでいて周囲から生意気なバンドと思われていたのだと思います。しかし、そのなかにあつて県外の先輩バンドとの交流やファンの方に支えられて考え方が変わってきました。あと結婚して子供ができて変わ

ました。

柳沼 素晴らしいお話を聞かせていただきました。少しネガティブな話になつてしまいましたが、私たちの住まう郡山、共に活動の拠点となる大切な地域ですが昨今は新型コロナウィルスの脅威に大きな影響を受けております。そこでバンド活動への影響や変化についてお聞きしたいと思ひます。

ヨギ 私たちは多い年で年間百本近くライブを行っていました。新型コロナウィルスの影響でかなりライブ数が減り結果として収入が減りました。そして収入が減ったことでグッズ作成やCD作成のための資金繰りが厳しくなりました。しかし、ライブを行つて私たちが新型コロナウィルスの発生源になつてもいけないという葛藤があります。そして実際に少数の観客を入れてライブを行ないましたが、現状ではまだ無観客で良いかと思つています。もちろんファンを見てライブを行ないたいという想いはありますが、それで新型コロナウィルスに感染しファンや家族に移したら絶対後悔します。



ヨギ(太鼓)

秀吉 ライブは少ないが逆に制作に使う時間が増えたと前向きに考えています。またCDをリリースしてサブスクで配信という方法も考えています。ただイベントはバンドを支える収入源として大きいのでイベン

トが無いのは厳しい状況でした。

ホリ そのなかにあつて配信という方法を行つていったのですが、配信にもいいところがありました。県外のファンも見えていただけで、「こういうこともできるようになったんだ。」とポジティブに捉えています。

秀吉 今までデジタルに乗るきつかけだったので今の時流に乗るきつかけだと思つています。

ヨギ 本当にアナログなのです。会場でファンに我々の全身全霊の歌を届けて、CDを売つたり、話し続け、ファンとの親密な関係を築けてきたと思つています。

秀吉 だからこそファンを大事にしてきた自信があります。

ホリ そこは絶対にあります！

柳沼 そういったファンとの距離感をも新型コロナウィルスが無理やりアナログをデジタルに変えていった面もあるのかもしれないですね。新型コロナウィルスのことについて話していただきました。また、ネガティブな話が続きますが本年、東日本大震災から十年という大きな節目を迎えました。二月にも大きな地震に見舞われ、今もなを大きな影響が市内各所に残つています。我々もこの震災を風化させず、防災意識を次代につないでいくために本年度様々な事業を計画しています。震災当時を振り返つて今どのようなことを思いますか。

秀吉 当時、二十一歳で鏡石に住んでいましたが、住宅への被害が大きく入れない状態でした。二月の地震は十年経つてもう大丈夫なのではと思つていたところに起きたものだったので改めて怖いと思ひました。二月の地震については「まさか起きるとは…」と「やっぱり起きたか」のどちらかを思つた方々がいる

とは思いますが、自分は「まさか起きるは…」というか「マジか!？」と思いました。

ホリ: 十年というスパンで起きた地震を経験して改めて意識して対策しなければいけないと思いました。原発事故からの放射線問題もあり、現地の人より周りの人の方が警戒していたように思えます。今では東京はコロナで危険だと言われていますが、これは当時の福島県がこういう感じに見られていたとも見れました。こうしてみるとコロナと地震に関しては似ている部分があるのだと思います。



ホリ・ユナイテッド(四弦)

ヨギ: 震災当時は、自分もまだ若かったので単純に凄いことが起こった！やバイ!!と少し他人事のようなところがありました。今年二月の地震では、揺れがすぐ子どもに覆いかぶさって守りながら揺れが収まるのを待っていました。住宅にもかなり大きな被害を受けてしまい

正直、二月の地震のほうが怖かったです。十年前の震災後は防災の意識あつたのですが、時間とともに当時起きたことを軽視してしまいましたが二月の地震から緊急防災セットを備えておこうと改めて思いました。

柳沼: 子どもについて話が出てきました。子どもが生まれて楽曲の制作等に何か変化はありましたか。

秀吉: 歌詞よりも曲調が大きく変化しましたが、自分では良い影響が出ていると感じています。また結婚し

子どもができて一番は音楽に対する意欲がさらに湧いてきたということ。なにより子どもにカッコイイ姿を見せたい一心で、実際そうなるのが何よりも嬉しく、そういう自分に出会えたことが音楽にも歌詞にも影響されています。

柳沼: ライブなどで全国各地を周られています。音楽活動を通して様々な地域を見てきた「ひとりぼっち秀吉BAND」だからこそわかる京都郡山としてのポテンシャルや可能性などどのように感じますか。

秀吉: もつと市民を巻き込んでいければと思います。もちろん音楽が好き

な方が沢山いるのは分かっているのですが、それをどのように巻き込んでいくかが重要だと思っています。

ヨギ: まだまだ可能性はあると思います。

それこそ下北沢のように年に一回路上に沢山のアーティストで埋め尽くして本場に音楽の一日を作ってみるとか、名古屋なども町全体を使ってイベントを行っている。郡山もそのような音楽の一日を作ってみてもよいと思う。郡山駅前広場を使つての音楽イベントがあるが、まだまだ規模的に小さいと感じるし、他のまちと比べても、もつとまちを音楽一色にできる可能性はあると感じている。それに貢献できるのであれば自分達も手伝いたいし、逆に皆が力を貸してくれるならば僕らが最初になりたいとも思っています。

柳沼: 本年、青年会議所の東北地区大会が郡山で開催される予定です。この大会のPR動画の挿入歌に「俺たちまだやれる人」を使用させていただきます。九月に郡山を訪

れる東北各地のJCメンバーに向けてメッセージをいただけますでしょうか。

ホリ: まずはPR動画に自分たちを起用してくれたことに感謝したい。

ヨギ: 音楽がコロナ禍により、今まで会場でしかできなかったことが配信でできるようになりました。まちづくりも音楽と同じように新しい手法が生まれてくるはず。色々なことを試して今できるかたちを見つけていきお互い頑張っていきましょう。

秀吉: 俺たちまだやれる人です。誰かに負けてもいいが、自分自身には負けないよう頑張っていけたらと思います。

柳沼: 我々もこのような状況下で折れずにブレずに事業構築していきたいと思えます。そのなかで音楽都市を発信するうえでPR動画に楽曲を提供していただいたこと様々なかたちで引き継いで協力いただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

柳沼: 最後に市民に向けて広く本日の対談を発信していきたいと思つていますので、ファンの方々や同じくバンドを目指している若者も含めて郡山市民に向けて何か一言いただけたらと思います。

秀吉: コロナ過のなか皆が不安だと思えます。ですが、そのなかでも音楽だつたりスポーツやそれ以外だつたりとその不安を取り除くものをそれぞれ持っていると思います。僕たちは音楽で地元の人たちを元気にしていきたいので、音楽が心の支えとなればと思います。音楽だけでなく何か楽しいものを大切にして一緒にコロナ禍を乗り越えていけたらなと思います。

柳沼: 本日は貴重なお話しを頂きまし

て、ありがとうございます。



『ひとりぼっち秀吉BAND』プロフィール

数々のメンバーチェンジやサポートメンバーの支えを受けて現在は、ひとりぼっち秀吉(歌い手)、四弦のホリ・ユナイテッド(四弦)、ヨギ(太鼓)の3名で活動するBANDグループ。

2008年8月、弾き語り者として活動していたひとりぼっち秀吉が筆頭となり結成し、2008年12月より活動を始める。

以降、「ARABAKI ROCK FEST.13」、「風とロック芋煮会」など様々なフェスティバルに出演し、2014年9月にシングルCD『home』を全国リリースし2016年11月には1st FULL ALBUM『フルアルバム』全国発売する。また、NHK Eテレ「福島をずっと見ているTV」エンディングテーマへの起用や福島ファイヤーボンズ応援歌を動画配信、最近では無観客配信ワンマンライブ「ひとりぼっち秀吉BAND-12th Anniversary-」を開催など「人間の喜怒哀楽、人間くささ」を胸に、地元福島県郡山市から全国各地・場所や会場を問わず積極的に活動を広げている。

そして、活動を行うにつれ、ファンの間から「人間ロック」という愛称が生まれ、授かりものだ!と勝手にライブで言いまくる。



公式ホームページ QRコード

1/22(金)
1/24(日)
京都會議

一月二十二日(金)から二十四日(日)にて京都會議が開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、京都會議では初のWEB開催となりました。



一日目は(公社)日本青年会議所の第一回理事会、各会議・委員会の公開委員会、会計・コンプライアンスのオンライン相談会が行われ、WEBで開催されたオンライン理事会において、柳沼理事長は、現地で集まったようなスムーズさであった。」とコメントをしました。また、公開委員会では丸山雄平君が出席しております。JCプログラム革新委員会によるセミナーが開かれ、最短で輝く人材を育てるため、新入会員プラン、育成プラン、ビジネスプラン、理事役員プランに分けられた設えでした。

二日目には、主観締結式、第一六六回総会の後、前日に引き続きJCプログラム革新委員会によるセミナーが開かれました。その後、メインフォーラム「地域イノベーションプロジェクト」地域とつながり共に創ろう、日本の底知れぬ可能性を」と、国家フォーラム



「地域を彩るニュータイプ人材の輝かせ方」、組織フォーラム「二〇二二年度日本青年会議所はこう変わる!」、国際フォーラム「BEYOND:国境を越える、日常を超える」、AWARDS JAPAN 2020がYouTubeにて配信されました。

三日目には新年式典が行われ、(公社)日本青年会議所第七十代会頭 野並晃君は会頭所信において、行動を変え、習慣を変え、成長のチャンスである、それがイノベーションにつながり変革へのチャンスである。青年会議所の中の新しい習慣というものを共に生み出していきたいとお話しました。本年度は、第二部として副会頭や常任理事による各会議の運動についてのお話があり、閉会となりました。

このような情勢ではあるが、だからこそ立ち止まらない日本青年会議所の姿勢は、我々郡山青年会議所が今後の運動を展開していく上での大きな励みとなりました。

京都會議にて配信された動画の一部は、まだご視聴できます。



野並晃君は会頭所信において、行動を変え、習慣を変え、成長のチャンスである、それがイノベーションにつながり変革へのチャンスである。青年会議所の中の新しい習慣というものを共に生み出していきたいとお話しました。本年度は、第二部として副会頭や常任理事による各会議の運動についてのお話があり、閉会となりました。

1/27(水)
一月例会並びに定時総会

一月二十七日、公益社団法人郡山青年会議所二〇二二年度一月例会・定時総会が開催されました。今回の例会・定時総会は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みてのWEB開催となりました。



例会では、柳沼勝恵理事長がスローガンである「共奏く共に創ろう笑顔と活気溢れる郡山の未来を」にかける熱い想いを述べ、新型コロナウイルス感染症により、生活様式が変わり、我々も変化が必要である中、「手法は変われど学びは変わらない」と常に青年会議所は目的を持った団体であることをお話ししました。

続く会務報告、出向者報告では各委員長、出向者より、本年度の方針や決意について発表がありました。

その後、新入会員への入会許可証の授与と新入会員の事項紹介が映像で流されました。



定時総会では、議長に丸山雄平君、副議長に鈴木章弘君が選出され、初のWEB開催という特殊な状況下の中ではございましたが、総務委員会の見事な設えにより、議事は滞りなく進行され、全議事が無事承認されました。

総会の最後に柳沼勝恵理事長より二〇二二年度理事長の柳沼克郎君に感謝状が贈呈され、柳沼克郎直前理事長からの二〇二〇年度の御礼を最後に二〇二〇年度の運動・活動が終わりました。

今までにない手法ではございましたが、そのような中だからこそ新しい方法やメンバー一丸となつて共に創り上げた定時総会には新しい時代をこれから迎える郡山青年会議所らしいスタートを切る事ができました。



新春のつどいWEB動画配信

二月六日(土)の新春の集いは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から福島ブロック協議会のYouTube公式チャンネルを使用したWEB配信となりました。

始めに新春の集いに先立ちまして東北地区協議会二〇二一年度会長である倉橋龍太郎君からの挨拶が配信され、新型コロナウイルスの影響でネガティブな情報が氾濫するなかで、市民による自浄作用が機能し社会が健全に発展していくには、リテラシーを伴っている青年会議所活動が必要である。皆で手御携えて乗り越えていこうとお話されました。



新春の集いでは福島ブロック協議会二〇二一年度会長佐々木公一君が「輝く個が切り拓く愛と希望に満ち溢れる幸福な福島」の創造を基本理念として掲げ、対応に追われる大変な中でも楽しさを忘れないという意味を込めた「バチコイ!ふくしま」を楽しもう!すべては自分次第の「スローガン」とも普遍的な人づくりと地方創生の起点となるべく各LOMと連携を図りながら運動を展開していくとお話しされ、続いて各委員会から方針と決意表明が発表されました。

第五十一回福島ブロック大会in相馬のPR動画があり、ブロック大会実行委員長飯塚知之君からスローガン、シンボルマークの説明が行われました。福島ブロック協議会十九LOMのP

R動画では各理事長の名前とスローガン、そして過去の事業風景が紹介されました。



2/19(金)

議案書セミナー

二月十九日(金)事務財政局より議案書セミナーがWEB上にて開催されました。

今回のセミナーは、我々の事業を計画する際に作成される議案書について開催されました。

最初に事務財政局次長の江崎健太郎より、議案書の基本的な作成方法について説明を受け、書式上の注意点などを説明しました。

次に副理事長の川村憲司君による「ブレない議案書とは?」について講演していただきました。

議案構築について「桃太郎」の鬼退治を参考に議案書作成時に事業を行う意義についてブレてしまった際の考え方などをお話いただきました。

最後に事務財政局長の安齋元喜君より、事務財政局が注目する点などを前段の「桃太郎」の議案書によくある間違いを散りばめて、これまで学んだことからどこが間違っているのかを解説しました。

私たちの住む郡山市をより良くするための事業を構築するのに欠かせない議案書について、非常にわかりやすく学べたセミナーとなりました。



2/25(木)

二月例会

二月二十五日(木)公益社団法人郡山青年会議所二〇二一年度二月例会が郡山市公会堂にて開催されました。

二月例会に先立ちまして公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会の総務委員会委員長 大野泰明君より先日行われました「新春の集い」と「福島ブロック協議会十九LOM PR」の動画のPRがございました。

理事長挨拶では、二月十三日(土)の夜に発生した福島県沖地震について触れ、地域との協力関係、そして個人の防災意識の構築をしていかなければならない、そして「共助の精神で支えあい、乗り越えていきましょう」と力強いお話がありました。

また、新型コロナウイルスについて決められたルール、ガイドラインを遵守し青年経済人としての自覚を持ち行動しなければならぬとお話されました。

その後は各委員会の会務報告、各出向者の出向報告が行われました。その中で、会員開発委員会事業のご案内がありました。

各委員会・出向者からはコロナ禍の中でも活動を続けていることを報告しました。

また本例会より新入会員がセレモニーを担当することになり、緊張しながらも初めてのセレモニーを堂々と勤め上げました。



2/27(土)

新入会員オリエンテーション並びに 現役会員向けセミナー

二月二十七日(土)、新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナーが郡山市内にあるビッグアイ五階市民プラザ会議室にて開催されました。



はじめに開校式が行われ、冒頭の挨拶で理事長 柳沼勝恵君より新入会員に向けて「わからないことでも取り組むことで学ぶのも大事だが、今回は各担当者がJCについてわかりやすく説明しますので、しっかりと理解して今後の活動に活かしてください。」と述べられました。



基礎研修では副理事長 久保田雄大君より「JCの基本理念、JC運動、三信条について」、副理事長 芝田銀平君より「公益社団法人郡山青年会議所の歴史と伝統並びにその活動について」、副理事長 川村憲司君より「用語・定款・諸規定について」、監事 樽川明広君より「公益社団法人日本青年会議所並びに出向について」各テーマで研修を行いました。

研修を経て、新入会員は今日までわからなかった青年会議所についての多くのことを学ぶことが出来ました。その後、休憩をはさみ事務財政局各室及び委員会事業説明を局長、各室長・委員長より新入会員に説明されました。続いて、二〇二〇年度の褒賞受賞者である、最優秀新人賞の江崎健太君、最優秀JAYCEE賞の織田陵平君が自身の

体験から学びと想いをお話ししました。



昼食の後、VMVセミナーをWeb会議サービス「Zoom」を用いて、遠隔地にいる講師と会場をつないで開催しました。JCが何をやるどころか良く考え、自分達の運動の方向性を探るためのセミナーであり、公益社団法人日本青年会議所のヘッドトレーナー 立川玲奈先輩(JCI福岡岡シニア)、アシスタント



トレーナー 中村正史君(JCI福岡)、宮永隆典君(JCI当別)をお招きして行われました。

理事長講話では、参加者は理事長と新入会員のみとなり、理事長が新入会員時代やこれまで青年会議所で学んだことなどをお話ししました。

新入会員特別研修では、三分間スピーチとJC宣言文と綱領の唱和のテストが行われました。三分間スピーチでは、ランダムで出されるお題に対して、新入会員が臨機応変に対応してスピーチしました。

JC宣言文と綱領の唱和のテストでは直前理事長 柳沼克郎君、監事 大槻俊介君、監事 樽川明広君を審査員として二〇二二年に新しくなったJC宣言文、そしてJCメンバー個人の運動目標である綱領の暗唱テストをしました。

緊張のせいか上手く実力を発揮できず、苦戦しましたが、厳しい審査を乗り越え、無事に全員合格となりました。全てのファンクションが終了し閉校式の際、柳沼理事長より修了証書が一

人ひとりに授与され、本事業は無事終了となりました。



3/25(木)

三月例会

三月二十五日(木)公益社団法人郡山青年会議所二〇二二年三月例会が郡山市公会堂にて開催されました。



理事長挨拶の冒頭で、東日本大震災から十年となる節目の年を迎え、様々な事業の報告がありました。

最初に二月二十六日(金曜日)にビッグアイ五階市民プラザ会議室にて行われました、新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナーを終えて「新入会員だけではなく現役会員にとっても大きな学びになった」とお話しされました。その後には、三月十一日に郡山駅前

行われた「復興の灯プロジェクト」と郡山市開成山公園にて行われた「3.11オールフォーワン」に郡山青年会議所が参加したことについてお話ししました。復興のために協力して活動することから多くのことを学び、今後行う東北青年フォーラム、六十周年事業に活かせるとても良い事業だったとお話しされました。

また、多くの復興イベントに参加する中で理事長所信にもある防災意識をしっかりと植え付け、未来へ繋げられる事業を今後構築していきたいと述べました。最後に、郡山青年会議所として地域のために何ができて何を残すことができるのかを考えて「地域に必要とされる郡山青年会議所でありたい」と述べられました。

その後は各委員会の会務報告、各出向者からの出向者報告が行われました。



今回の会務報告には六十周年実行委員会から周年事業についての説明や報告と、東北青年フォーラム in 郡山実行委員会からの報告もありました。



各出向者からコロナ禍のなかでも、実地開催やWEB会議、ハイブリッド会議と様々な方法で活動が行なわれていると報告がありました。



例会の終了後に新入会員を終えた新入会員による決意表明がありました。青年会議所について学び、多くのことに気づきを得た新入会員が今後の青年会議所での運動・活動の抱負を述べました。

4/3(土) 郡山市長選に伴う公開討論会

四月三日(土)に郡山市長選に伴う公開討論会が郡山青年会議所のYouTubeチャンネルにてライブ配信されました。

今回の公開討論会では、三人の立候補予定者をお招きして開催されました。また、コーディネーターとして福島ブロック協議会の副会長 寺島大樹君、サブコーディネーターに福島ブロック協議会の組織連携推進委員会総括幹事 鈴木直樹君が務め、スムーズな進行となりました。

公開討論会では、新型コロナウイルス対策、防災・安全、デジタル化社会の取り組み、郡山の発展・都市計画の四つの議題に対しての議論と各立候補予定者の主張発表が行われました。



4/17(土) 創立六十周年キックオフミーティング

四月十七日(土)郡山市公会堂にて、創立六十周年記念式典に向けて、創立六十周年キックオフミーティングを開催しました。



六月十九日に開催される創立六十周年記念式典に向けて、周年の大切さ、心構えやアドバイスをいただくために、創立五十周年実行委員長を務められた石川直哉先輩、

二〇二二年度専務理事の高田哲也先輩、創立五十周年事務局長の伊藤実先輩をお招きしました。創立六十周年キックオフミーティングでは創立五十周年記念式典・祝賀会の



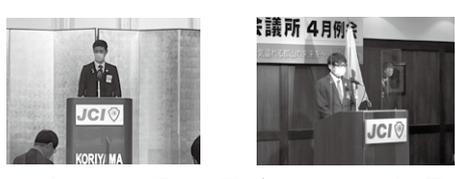
映像を視聴しながら、当時どのような設置運営したか等のお話していただきました。また、当時の創立五十周年の座談会を開催し、座談会終了直後に東日本大震災の被害に遭い、当時の事務局も被害に遭い会議も開催できなかったことや、メンバーのお店を借りて会議を開催したことなど当時の震災被害に遭いながらも創立五十周年記念式典・祝賀会に向けての準備やLOMの運営など経緯をお話いただきました。

その後は、活発な質疑応答が行われ、先輩方から大変貴重なアドバイスをいただきました。

4/26(月) 二〇二二年度四月例会並びに現役会員とOB会会員の活動報告会

四月二十六日(月)郡山ビューホテルネックスで二〇二二年度四月例会並びに現役会員とOB会会員の活動報告会が開催されました。

例会において、柳沼理事長は挨拶で日本青年会議所総会、会員会議所会議など三月例会から四月例会までに行われた事業についてお話しされました。そして創立六十周年記念式典、東北青年フォーラム主管in郡山を通して郡山の質的価値の向上に全力で



取り組みたいと述べました。その後、各委員会からの出向者報告が行われ、会員同士の情報共有が図られました。

その後、開催された現役会員とOB会会員の活動報告会では、多くの諸先輩方にご参加いただきました。冒頭の理事長挨拶で

そして最後に理事長から新型コロナウイルスが猛威を振るなか次代に則した新しいかたちを模索し、我々の六十年分の感謝を伝え、六十年という歴史と伝統に恥じぬ創立六十周年式典をメンバー一丸となつて構築していくと決意を述べられました。



はご参加いただいたOBの先輩方へのお礼と郡山青年会議所の現状と指針についてお話しされました。続いて、OB会会長挨拶では例年四月に行われる現役会員とOB会会員の交流事業の意義についてお話しされ、この困難な状況のなか一致団結して頑張っていきたいと思いますとお話されました。

その後、活動報告や理事紹介、新入会員紹介が行われ滞りなく閉会いたしました。



4/29(木)
▼
5/9(日)

第五十六回 郡山市子どもまつり

四月二十九日から五月九日にかけて、「第五十六回郡山市子どもまつり」がウェブ動画配信にて開催されました。

昭和四十一年に(株)郡山青年会議所が立ち上げ、本年度で五十六回目を迎える「郡山市子どもまつり」でしたが、本年度は新型コロナウイルス感染症対策により従来とは異なる形で開催されました。新たな形式を用いることで市中感染を防ぎ、子どもたちの学びと家族のふれあいの場を創出するために、動画コンテンツを作成させていただきました。

郡山青年会議所は「親子で一緒に考えよう!ドキドキ防災クイズ」と題

しまして、子どもと家族が一緒に考えることのできる防災に関する問題を二択のクイズ形式で出題しました。



配信された動画は、郡山青年会議所のYouTubeチャンネルにて視聴することが出来ます。



郡山青年会議所
YouTubeチャンネル

4/30(金)

第六十回「久米賞・百合子賞」実行委員会 第一回委員会

四月三十日(金)、第六十回「久米賞・百合子賞」実行委員会第一回委員会が郡山市役所本庁舎五階教育委員会室にて開催されました。当日は、郡山市文化



スポーツ部文化振興課、郡山市教育委員会学校教育部学校教育推進課、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社より代表の方にご出席いただき、開催要領や実行委員会規約、募集

方法期間、審査委員年間スケジュール、予算など、年間の運営方針について協議が行われました。

本年度で記念すべき第六十回を迎える「久米賞・百合子賞」の歴史と伝統を引継ぎ、更なる発展へと繋げていくことを確認し合い、閉会となりました。



会員募集

公益社団法人郡山青年会議所

二〇二一年度 新入会員募集要項

【募集期間】

二〇二一年度一月一日、

二〇二一年度十二月三十一日

【入会資格】

郡山市及びその周辺に、住所または勤務先を有する年齢が満二十歳以上三十八歳未満の品格のある青年で、青年会議所運動をするのに支障のない条件を備えていること。

【会員の責任】

毎月開催される例会、委員会及び各種遠征事業に積極的に参加すること。

【入会申し込み手続き】

郡山青年会議所に入会を希望する者には、現役会員の推薦が必要です。会員選考委員会による書類選考と、推薦人同席による面接があります。理事会により入会承認が決議されれば入会資格を得られます。

【入会承認後の手続き】

提出書類(入会承認を入会希望者の推薦人に通知後二十日以内に提出) 入会申込書(会員原簿) 入会承諾書・推薦人確認書・住民票・写真 手続き完了後、二〇二一年度一月一日より正会員となります。

【お問い合わせ】

公益社団法人郡山青年会議所事務局
TEL 〇二四一九三三二二八九
FAX 〇二四一九三三二二八五七
※入会申し込みに関してご不明な点やご質問等はお気軽にお問い合わせください。



新入会員紹介

四月から、二〇二一年度新入会員として、圓谷紀幸君が入会しました。



つむらや のりゆき
圓谷 紀幸
株式会社 つむらや

編集後記

広報誌五月号が発刊となりました。今回は理事長対談と二月から五月上旬までの活動報告となりました。改めて活動内容を振り返ってみると、例年開催されていた数多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となつてしまったことが悔しかったです。涙を飲んで中止とした事業や、例年とは手法を変えての開催を行った事業の背景には様々な思いが詰まっているかと思うと非常に悔しい気持ちでした。今後の情勢のよつては色々変化をしなければならぬのでしようが、二例会で理事長が申し上げました「手法は変わっても学びは変わらない」という言葉を胸に、新しいJ.C.の形を作り上げていきたいと思えます。

広報委員会委員長 坂本 皓亮

NO.601号

発行所事務局 福島県郡山市中町5-17
公益社団法人郡山青年会議所

発行責任者/理事長 柳沼 勝恵
編集責任者/広報委員会委員長 坂本 皓亮

※無断転載禁止